

「区役所・世田谷区民会館の思い出写真展」開催にあたりまして

区民に親しまれてきた区役所及び世田谷区民会館も、完成から60年以上が経過し、災害対策や区民サービス、環境性能等の面で様々な課題を抱えており、区では、この間、区役所等の改築計画（区民会館ホールは保存・改修）を進めてきました。

令和元年度には実施設計概要をまとめ、工事施工者の選定を経て、いよいよ今年の7月には整備工事に着手する予定です。

現在の世田谷区民会館及び区役所第1庁舎は、1957（昭和32）年に実施された区民会館設計競技（コンペ）で、前川國男建築設計事務所（現：前川建築設計事務所）が設計者として選定され、建設されました。

コンペの当時の時代背景には、戦前まで武蔵野の自然と田園地帯だった世田谷に、部分的に文化人などが居住する住宅地なども開発されてきており、戦後には広範囲なエリアが住宅地として開発され、人口が急増している状況がありました。

コンペで要求された施設内容は、ホール（公会堂）のほかに図書館、集会室、展示場、結婚式場などの複合施設（公民館）であり、同一敷地に建設される区役所庁舎は、コンペ段階ではその概略の配置のみを提案するものとされました。

世田谷区民会館は1959（昭和34）年、第1庁舎は1960（昭和35）年に完成し、双方の建物をつなぐ低層棟のピロティから中庭に至る「広場」を中心にした施設構成は、世田谷区の多様な文化を受け入れることに成功し、また世田谷区民もこの広場を有効活用し親しんできました。

その後、さらなる人口増や行政事務の拡大から、第2庁舎、第3庁舎、近隣施設へと、本庁機能の分散化が進みました。その後の地域行政制度に基づく総合支所の創設により、区役所本庁舎と区民との関係も変わってきています。また、区民会館は、当初の結婚式場が廃止され、図書館も移転しており、当初想定されたコミュニティ施設としての意味合いも変容してきていますが、区民会館が全区的な発表・表現の場であることは、今も変わっていません。建設当時、敷地内に植樹されたケヤキは大きく成長し、緑あふれる空間となりました。

令和9年度中に完成する予定の新庁舎においても、多くの区民の憩いの場として親しまれた現庁舎のケヤキ並木、ピロティ、広場、区民会館といった要素や関係性を継承し、区民会館ホールは保存・改修し、機能向上してまいります。

今回展示している写真は、区のおしらせ等での募集にご応募いただいた区民、団体の方の世田谷区民会館やその周辺の思い出の写真や前川建築設計事務所でも所有されていた現庁舎等の建設当時の写真、区で撮り溜めてきた写真で構成されています。

写真のエピソードは、ご応募いただいた方からお寄せいただくとともに、区役所の地元町会である若林町会の皆様にご協力いただき、まとめたものです。

今回の写真展が、これまでの区役所・世田谷区民会館の歩みを、区民の皆さんとともに振り返り、新しい庁舎等へ想いをつなげていく機会となれば幸いです。

【思い出写真 展示期間】

第1庁舎1階 情報発信場所 Info-Ba(場)：令和3年2月15日～3月末

世田谷区民会館ホワイエ中庭ガラス面：令和3年2月15日～3月末

世田谷区民会館横ケヤキ並木：令和3年2月19日～3月中下旬